

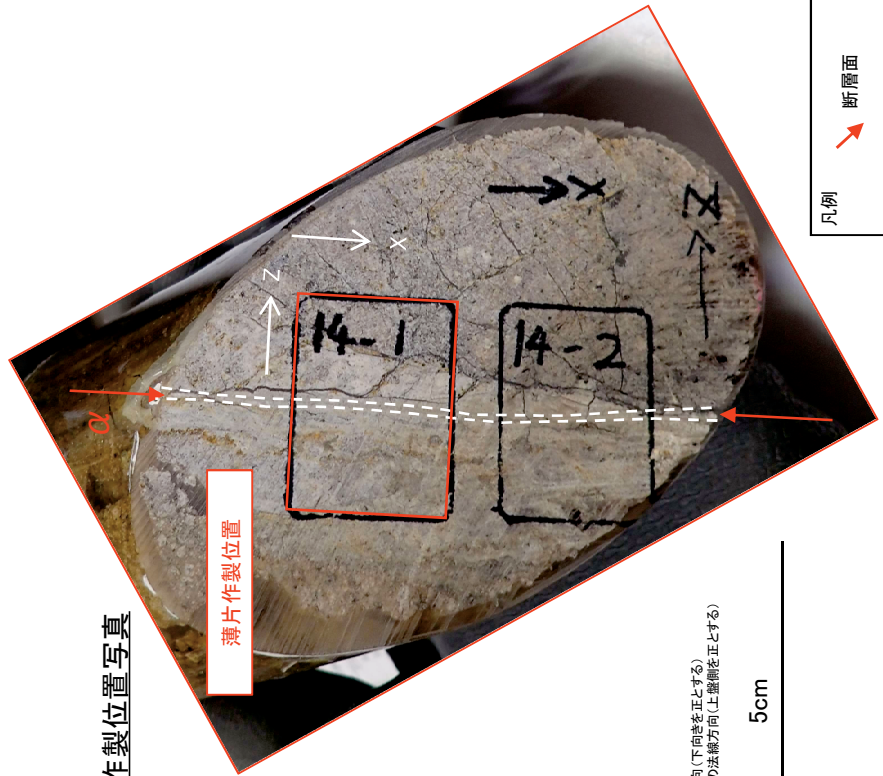
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

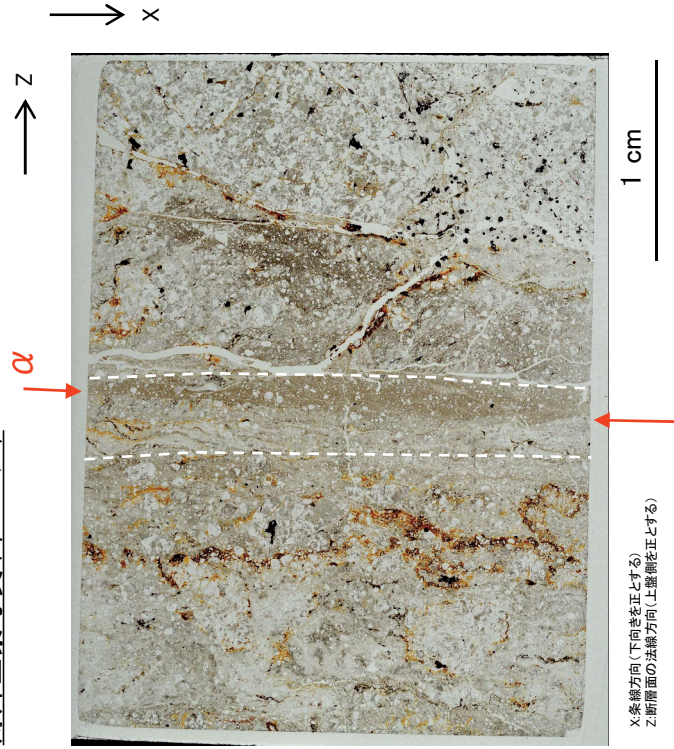
※断層面 α は最新活動面



薄片作製位置写真

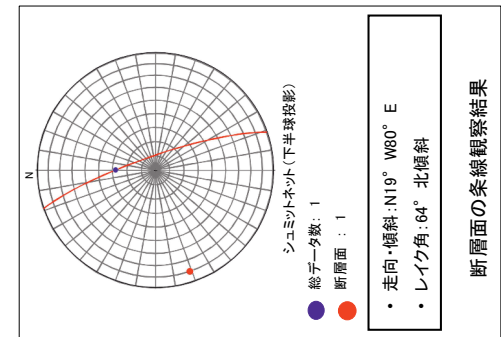


薄片全景写真(単ニコル)

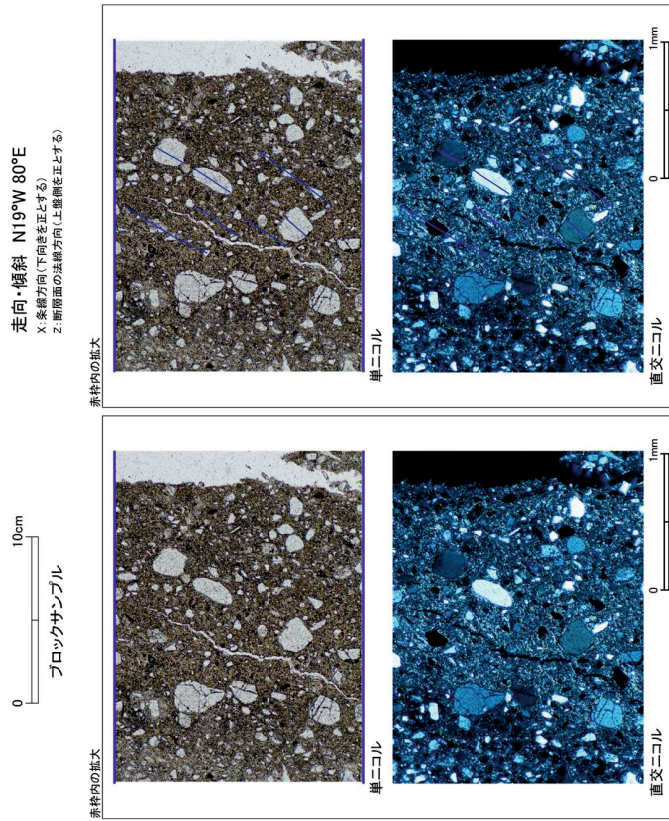
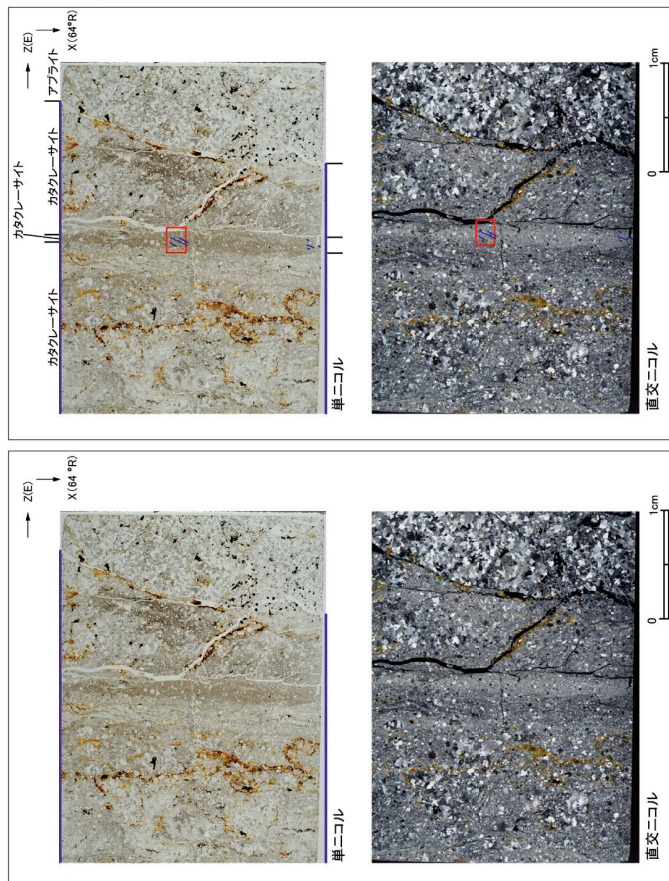
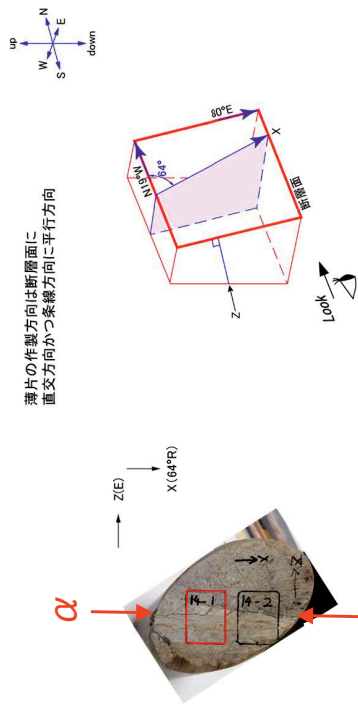


第7.4.4.377図 (2) 破砕部性状 H31-R-1 深度88.30~88.40m (薄片作製位置)

- ・H31-R-1のボーリングゴアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみのみからなる破砕部であると判断した。
- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

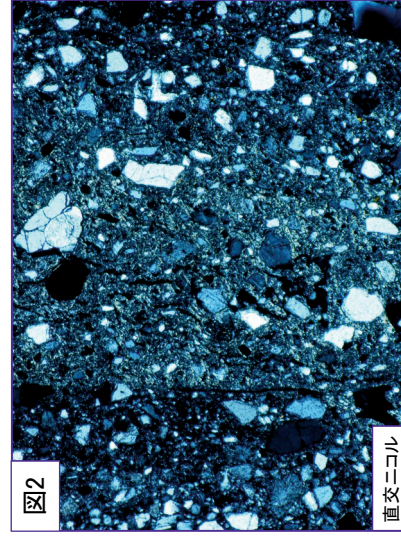
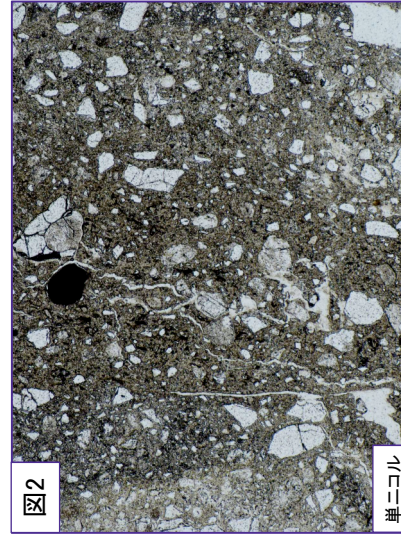
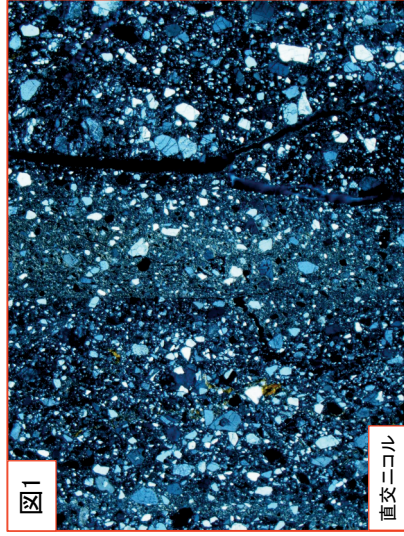
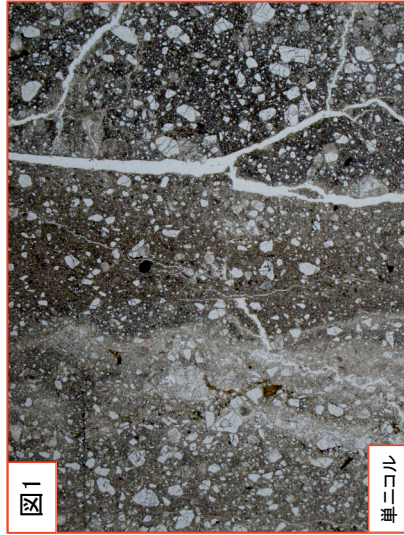
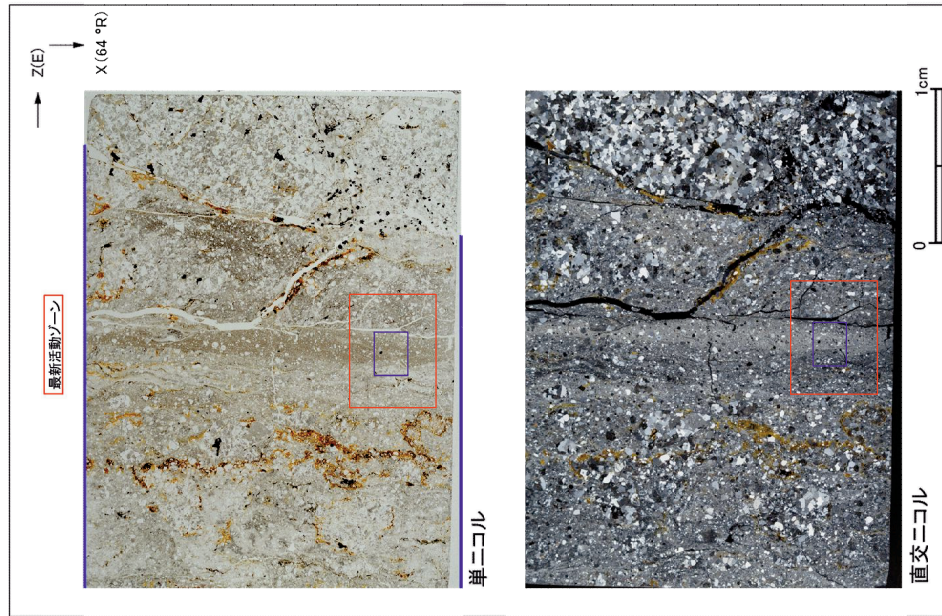


※断層面 α は最新活動面



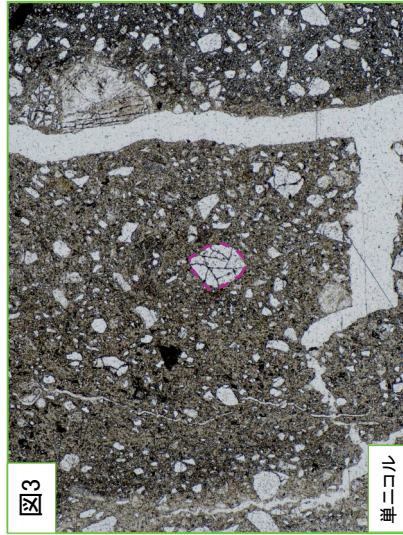
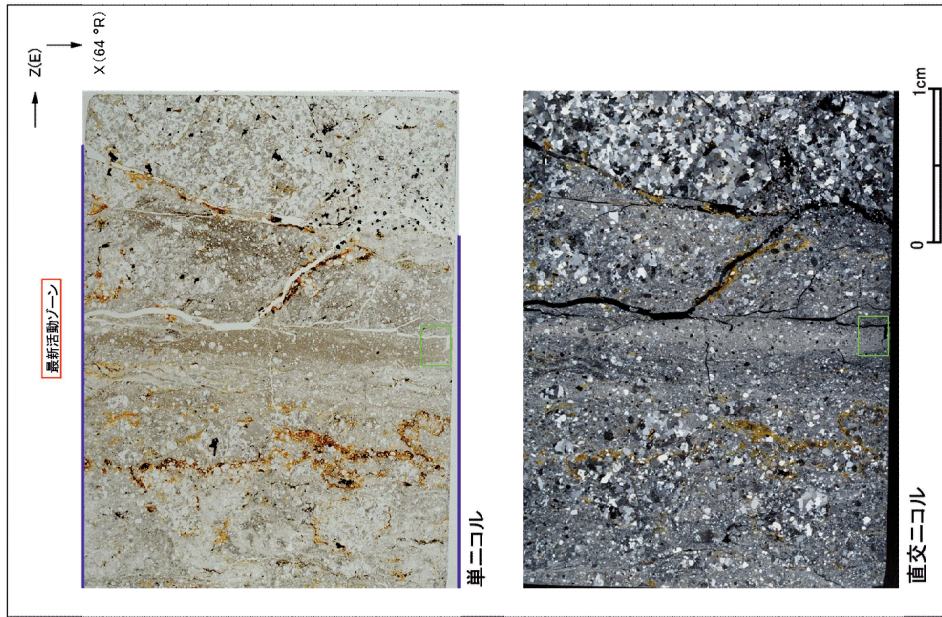
凡例	
—	断層カウジ
—	カタクレーサイト
—	R1面
—	P面

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)

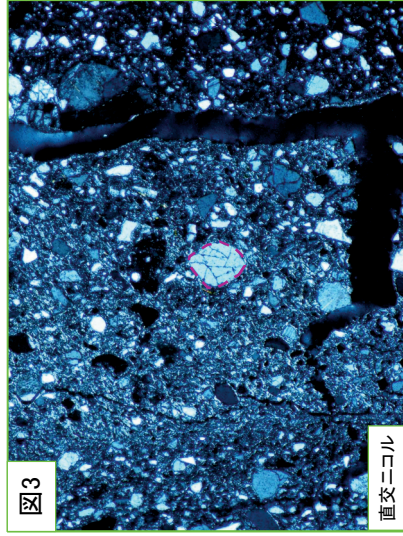


第7.4.4.377図 (4) 破碎部性状 H31-R-1 深度88.30~88.40m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度88.40m)

- 深度88.40mの「灰白色粘土」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「灰白色粘土」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
 - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した「灰白色粘土」と記載の箇所については、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサイトと評価した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	— (0.1)	— (無)

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「—」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度97.76～97.78mの「細礫混じり砂質粘土状」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められないが、細粒部の連続性及び直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。

・一方、上端の深度97.76mの「幅1.5mmの暗緑灰色粘土を挟む」と記載の箇所については、粘土は軟質で、直線性にやや乏しいが、連続性が良く、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジとして扱った。

・また、下端の深度97.78mの「幅0.5mmの暗緑灰色粘土を挟む」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●97.76～97.78m：破碎部
 明緑灰色の細礫混じり砂質粘土状部(Hc-2)。幅9mm程度。軟質。上端30°で幅1.5mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。面は波打つ。下端32°で直線的な幅0.5mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載



青砕部拡大

直線性がやや乏しいが、連続性が良い暗緑灰色粘土
 連続性・直線性が良い暗緑灰色粘土